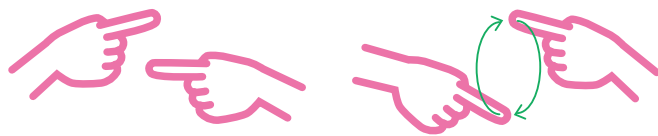


楽しくおぼえよう!

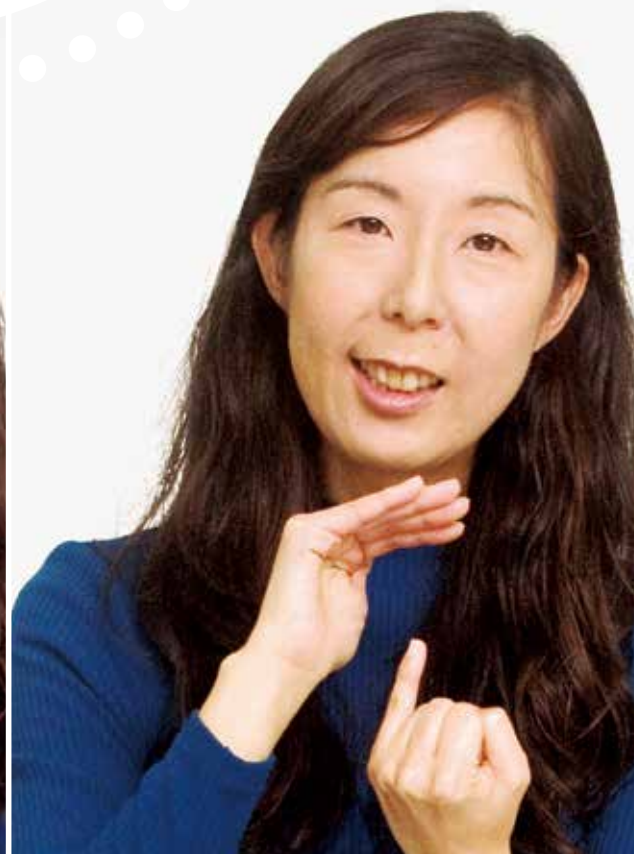
はじめての
手話と点字



手話

目で見る言葉

監修 東京都聴覚障害者連盟



はじめに

「手話」は「手の言葉」です。

みなさんが声でしゃべるように、耳が聞こえない人は手でしゃべります。

はるか昔、耳が聞こえない人は「言葉をしゃべれないから人ではない」と言われていました。手話が誕生したことで、聞こえない人たちも人としてみとめられるようになりました。手話は聞こえない人にとって、「命」とおなじくらい大切なものなのです。

「手話をおぼえるのって、英語をおぼえるみたいにむずかしいのかな？」と思うかもしれませんが、そんなにむずかしくはありません。みんなが自然に使っている身ぶりや、ものの形、漢字の形などがもとになっていますから、楽しくおぼえることができます。

また、手の動きだけでなく、表情やしぐさなどでいろいろな表現ができます。

この本で、手話ってどんなものか、どんな手話があって、どんなふうにあらわすのかを知ってほしいと思います。そして、聞こえない人たちのことも知って、手話や身ぶり、筆談などのいろいろな方法で、ぜひ聞こえない人たちと話してみてください。

東京都聴覚障害者連盟 事務局長 越智大輔

この本の見方

この本に掲載している手話の写真は、すべて右利きの人のものです。手話は、利き手を中心にして表現する人が多く、右利きの人は右手、左利きの人は左手を中心にして表現するのが一般的です。

また、手話では、単語と単語を組みあわせてべつの意味をあらわすことがあります。どんな単語が組みあわされているのか、わかるように解説しています。

※手話の表現は、年齢や性別、地域などによってちがいががあります。この本に掲載したもの以外に、べつの表現をすることもあります。



もくじ

手話って、どんなもの？	4
あいさつをしよう	6
名前を伝えよう	8
指文字をおぼえよう	10
五十音の指文字	10
数字をあらわそう	14
数字のあらわしかた	15
いろいろなうけこたえ	16
家族を紹介しよう	18
性格について話そう	20
学校のことを話そう	22
たずねてみよう	26
気持ちを伝えよう	28
好きなことを話そう	30
予定や出来事を話そう	32
天気について話そう	34
行為をあらわす手話	36
友だちになろう	38
さくいん	39

手話って、どんなもの？

手話は、手や指、顔の表情などを使って話す言葉です。声を使って話す言葉とはちがった手話ならではの**特徴**があります。手話の世界をのぞいてみましょう。

目で見える言葉「手話」

手話は、耳の聞こえない人たちのあいだで発展してきた言葉です。声を使って話す言葉とはちがう**歴史**と文化をもっています。

手話では、手や指の動き、そして顔の表情もあわせて、気持ちやものごとを相手に伝えます。わたしたちが日ごろ使っている言葉が「口で話して、耳で聞く言葉」であるのに対し、手話は「手や指などを動かして、目で見える言葉」だといえます。

手話の特徴

手話は、ただ身ぶり手ぶりであらわすというのではなく、たくさんの**単語**を手話独自の**文法**ののっとなって表現しています。

手話の単語には、さまざまな表現のしかたがあります。たとえば、「食べる」という手話は、はしをもって食べる動きをもとにしています。「牛」の手話は、牛の角の形からきていて、「田」の手話は、漢字の形をもとにしています。また、「よろしくお願ひします」

手話のさまざまな表現

動きやようすから



食べる

すがたや形から



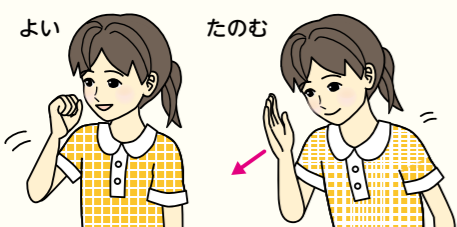
牛

漢字の形から



田

単語を組みあわせる



よろしくお願ひします

対象を指さす



あれ

手話とっしょに使う表現

指で文字をあらわす



あ

指で空中に文字を書く



人

自分から見たむきで書く。

のように、2つの**単語**の組みあわせでべつの意味をあらわす**表現**もあれば、「わたし」や「あなた」、「あれ」などのように、指で**対象**をさす「指さし」もよく使われます。

また、**質問**をするときは**表情**やまゆ毛のよせかたでたずねたい気持ちをあらわしたり、手の動きの大きさやはやさで**強調**したいことをあらわしたりと、手話ならではの**伝えかた**があります。

手話での**表現**のしかたがわからない場合や、人名や会社名などの**固有**のものは、指で五十音などをあらわす「指文字」を使ったり、指で空中に文字を書く「空書き」で伝えたりすることもあります。

耳の不自由な人と話そう

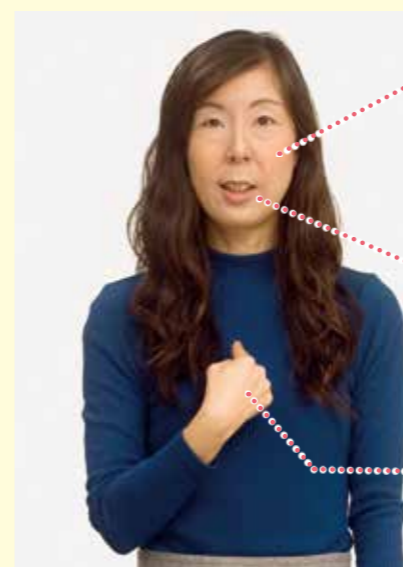
耳の不自由な人は、音声でしか案内がないようなとき、**情報**をえることができなくてこまる場合があります。そのようなとき、音声以外の方法で伝えられると、耳の不自由な人は安心することができます。

手話はひとつの言語なので、使いこなすには**相応**の**努力**が必要です。やさしい**表現**から少しずつおぼえて、耳の不自由な人たちと手話で話してみましょう。手話を学んでみると、話し言葉とはまたちがう**表現**のゆたかさがあることにも、きっと気がつくはずですよ。

手話をじょうずに伝えるポイント

手話は、おたがいのすがたをしっかりと見て話すことがたいせつです。伝えたいという気持ちや、相手を知りたいという気持ちをもって表現しましょう。

話すとき



表情

うれしいことを伝えるときはうれしい表情、かなしいことを伝えるときはかなしい表情というように、表情でも気持ちをあらわす。

口

手話と同時に、口の動きでも言葉をあらわすとよい。

手・指

相手にはっきり見えるように動かす。

話を聞くとき（見るとき）



相手をしっかりと見て話を聞く。話の途中でよそ見をすると、相手は自分の話を聞いていないと感じてしまうことがある。うなずきながら相手をしっかりと見て、手話を読みとろう。

手話って、どんなもの？

あいさつをしよう

はじめに、手話のあいさつをおぼえましょう。あいさつをするときは、「朝」「昼」「夜」をあらわす手話と、「あいさつ」をあらわす手話を組みあわせます。手の動きといっしょに、「おはよう」などといった口の動きをあわせてもよいでしょう。



おはよう (朝+あいさつ)



こぶしをこめかみにあて、頭を少しかたむける。頭をおこすのと同時に、こぶしを下にひきさげる。

両手の人さし指を、むかいあうように立てる。人さし指の指先を、おじぎをするようにまげる。

こんにちは (昼+あいさつ)

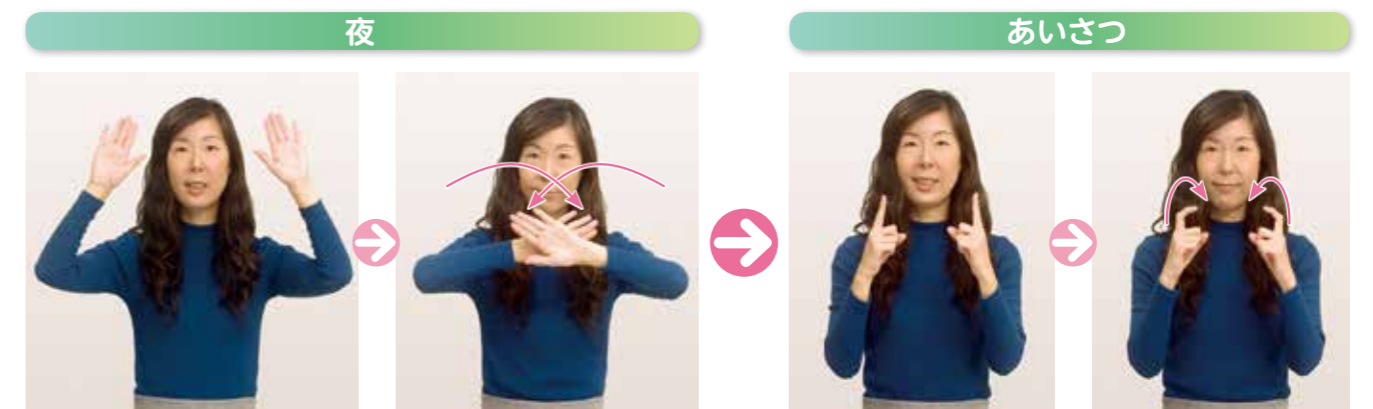


人さし指と中指をそろえてのばし、ひたいの真ん中にあてる。

両手の人さし指を、むかいあうように立てる。人さし指の指先を、おじぎをするようにまげる。

★ **ワンポイント** ★
あいさつのしかたには、いろいろなものがあります。ていねいな気持ちをこめたいときは、動きをゆっくり、ていねいにしたり、あいさつの手話をするとき同時に口のおじぎをしてもよいでしょう。

こんばんは (夜+あいさつ)



両手の手のひらを前にむける。顔をかくすように両手をとじて、顔の前で交差させる。

両手の人さし指を、むかいあうように立てる。人さし指の指先を、おじぎをするようにまげる。

おやすみなさい



両手をあわせ、ほおにあてて頭をかたむける。

こぶしをこめかみにあて、頭をかたむける。

※ A・B以外の表現もあります。

またね



2本の指をのばして前にむけてから、半回転させて自分のほうにむける。

さようなら



手のひらを前にむけて左右に何度かふる。バイバイの手の動き。

よろしくお祈いします (よい+たのむ)



こぶしを鼻にあてて、少し前にだす。

指をのばし、体を前にたおして頭をさげる。

あいさつをしよう

数字をあらわそう

数字は、右のページのようにあらわします。ここでは、自分の年齢や学年の伝えかたをおぼえましょう。2けた以上の場合は、大きい位の数字からあらわします。



わたしは9歳です (わたし+年齢+9)

わたし	年齢	9
人さし指で胸をさす。鼻をさしてもよい。	指をのばした右手をあごの下につけ、親指から順におってにぎる。	親指を立て、ほかの指を左にのばす。

小学三年生です (小+三+学生)

小	三	学生
左手の人さし指を立て、右手の人さし指と中指はさむ。	数字の「3」をつくり、手の甲を相手にむけて横にする。	右手を右肩のほうに、左手を下のほうにむけてから、左手を左肩、右手を下のほうに動かして、こぶしをにぎる。

※一年～四年は、数字「1」～「4」をつくり、手のひら側を自分に向けるように横にします。この形で漢数字をあらわします。五年と六年は、数字の「5」と「6」をそのまま表現します。

数字のあらわしかた

このページの写真は、すべて相手側から見たものです。写真の●の部分は、指と指のあいだをあけるようにします。

指を丸めて輪をつくる。	人さし指を立てる。	人さし指と中指をはなして立てる。	人さし指・中指・薬指をはなして立てる。	4本の指をはなして立てる。
親指を左にのばす。	親指を立て、人さし指を左にのばす。	親指を立て、人さし指と中指をのばす。	親指を立て、3本の指をはなしてのばす。	親指を立て、ほかの指を左にのばす。
		12～19もおなじように、「10」のあと、「2～9」をつくる。また、135などであれば、「100」のあと、「30」「5」とつづける。		
人さし指を立てたあと、指先をまげる。	「10」のあと、「1」をつくる。		人さし指と中指を立てたあと、指先をまげる。	3本の指を立てたあと、指先をまげる。
人さし指をのばし、下から上へあげる。	親指・人さし指・中指をあわせ、ほかの指を立てる。	人さし指で漢字の「千」を空書きする。	小指を立て、ほかの指をあわせて、右に少し動かす。	親指とほかの指をひらいたあと、すべての指先をあわせる。

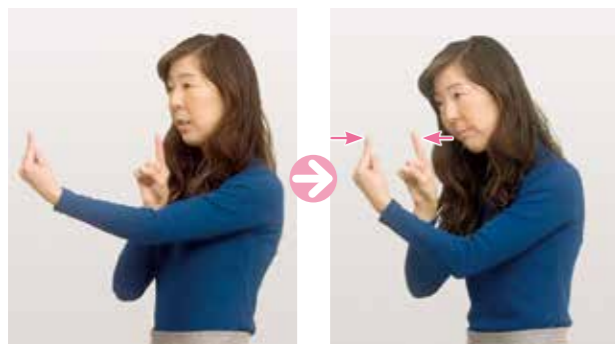
気持ちを伝えよう

楽しい気持ちや感謝の気持ちを伝えましょう。手の動きの大きさやはやさで、伝えたい気持ちに強弱をつけることができます。感情や気持ちを強調したいときは大きい動きで、おさえないときは小さい動きで表現しましょう。



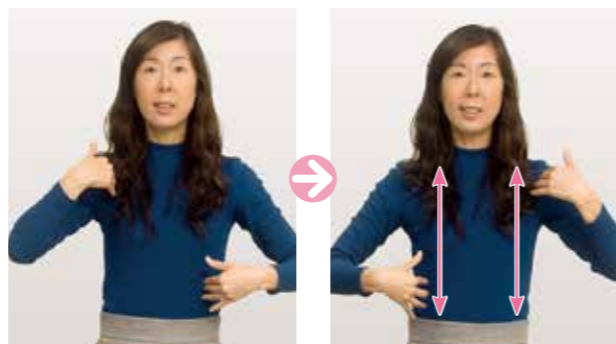
会えてうれしい (会う+うれしい)

会う



両手の人さし指を立て、むかいあわせる。2本の人さし指を近づける。

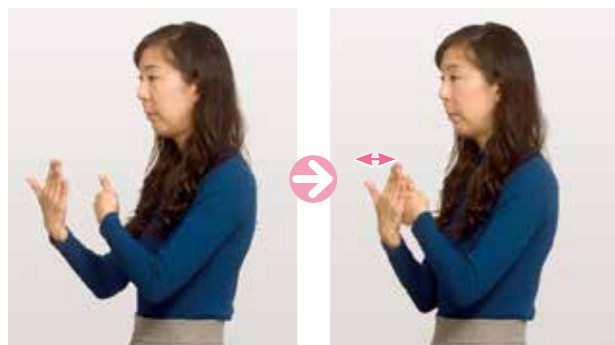
うれしい



両手の指を胸にむけてかるくまげ、交互に上下に動かす。

手伝ってくれてありがとう (手伝う+ありがとう)

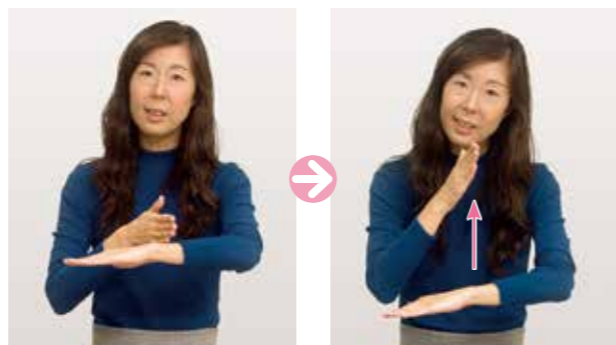
手伝う (手伝ってもらう)



親指を立ててにぎった左手の甲に、右手のひらを2回、かるくあてる。

※この「手伝う」は、手伝ってもらう場合の表現です。自分から手伝う場合の表現はp.27を参照。

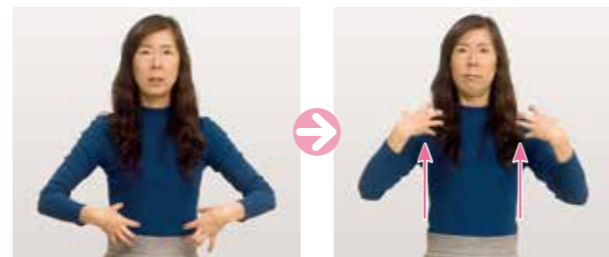
ありがとう



手のひらを下にむけた左手の甲に、小指を下にした右手をあてる。右手をあげながら、頭をさげる。

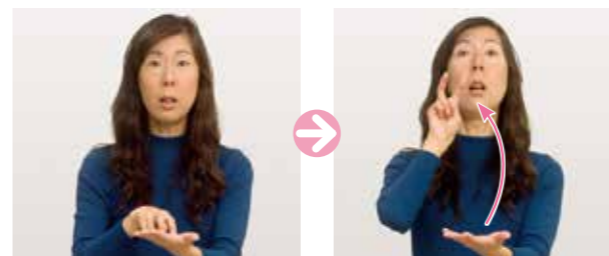
気持ちをあらわす手話

怒る



おなかの前で、両手の指をかるくまげる。両手を胸の前までひきあげる。

おどろく



右手の人さし指と中指をかるくまげて左手のひらにあて、すぐにひきあげる。

本当です / 本当ですか？



右手のひらを左にむけて立て、あごに2回あてる。

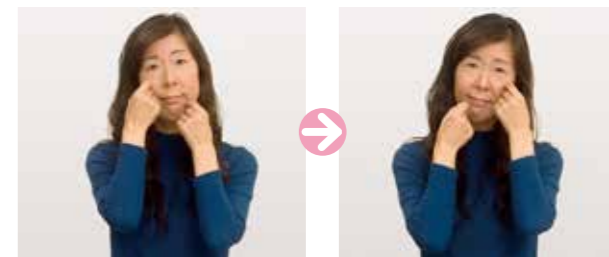
※表情のちがいで意味がわかります。

ごめんなさい (すみません)



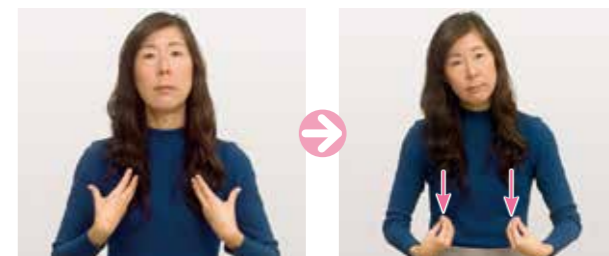
つまんだ人さし指と親指をひたいにつける。右手をひらき、前にだしながら、頭をさげる。

かなしい



目の下で親指と人さし指をつまむ。ほおにそって手をさげ、涙が落ちる動きをする。

がっかり



肩の前あたりで、手のひらを上にむけて両手の指をひらく。肩を落とし、指先をとじながらひきさげる。

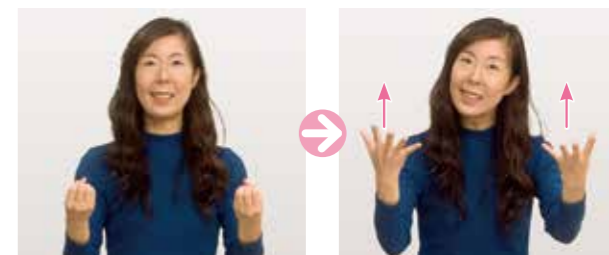
うそです / うそでしょ!?



右手の人さし指を少しまげ、ほおに2回、かるくふれる。

※表情のちがいで意味がわかります。

おめでとう



両手の指先を上にもつけてつまむ。指をパッとひらきながら、胸の上あたりまで手をあげる。